

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部2年 高橋梨佳子

今回の台湾留学で最も強く感じたのは、第二外国語として中国語を身につけることで、さらに世界が広がっていくということです。私は中国語初学者で簡単な挨拶しかできなかったため、基本的に英語を使ってコミュニケーションをとっていかうと考えていました。実際、台湾大学の学生や先生、ホテルのフロントの人と会話するなど、多くの場面では英語を使うことができました。しかし、地元の飲食店での注文時や街中で道を聞くときなどでは英語が通じないことも多く、その土地の言葉を使えることの重要さを実感しました。留学前は英語さえ使えば十分だと思っている部分がありましたが、特に中国語は英語の次に話者が多い言語であり、自由に使えるようになったら世界中のもっと多くの人々と交流できるようになるのだということを強く感じました。帰国後も自分で中国語の勉強を継続していきたいと考えています。

また、台湾の人は、台湾の文化や伝統に誇りを持っており、自分は台湾人であるという意識を持っていることを感じる場面が何度もありました。それは、日本から台湾有事に関するニュースを見ていた時に抱いていた印象よりも遥かに強いものでした。日本との物理的距離が近く関わりも深い台湾に起こっている問題に関して、この留学をきっかけに、より意識を向けていきたいです。また、このように現地を訪れて地元の人と交流しなければ見えないことが他にもたくさんあるのだろうと感じ、実際に足を運ぶことの重要性も認識しました。

今回は中国語学習者のための短期留学だったこともあり、友人同士で日本語を自由に使い、日本人同士で食事したり観光したりできる環境で、全体的に楽しく過ごすことができました。中国語を話せる日本人の友人もおり、日常生活で孤独を感じることや生活に不自由を感じることはほとんどありませんでした。そのため私は、留学期間の途中まで日本人の友人のみと過ごしていましたが、これでは後悔すると思い台湾大学の学生に勇気を出して声をかけてみました。そして、一緒に夜市に出かけたり隣の市まで遊びに行ったりしました。互いの文化の共通点や相違点を教え合うのはとても充実した時間でした。本当に楽しく貴重な経験で、声をかけてよかったと心から思いました。

1人での長期留学となると、言葉の壁や文化の違いがあり、慣れない環境で大変なことも多いと想像します。それを踏まえても、台湾人の親切心や温かさ、食事や生活様式などがとても心地よく、勉強のために長期滞在してみたいと感じました。